

令和6年10月4日
航空局安全部安全政策課

操縦士・航空整備士の女性活躍を推進！

～「女性活躍推進WG」の設置～

本年6月にとりまとめられた「航空整備士・操縦士の人材確保・活用に関する検討会」の中間とりまとめを踏まえ、操縦・整備分野における女性活躍を推進するための取組を検討するWGを開催します。

【現在の操縦士の女性比率：1.7%、整備士の女性比率：3.4%】

1. 日時

令和6年10月9日（水）14：00～16：00

2. 場所

中央合同庁舎3号館11階特別会議室

3. 議事

- （1）女性操縦士・整備士に関する現状と課題
- （2）今後の検討の方向性
- （3）意見交換

4. 委員

別紙の通り

5. その他

- ・会議については非公開、カメラ撮りについては冒頭（挨拶まで）のみとさせていただきます。
- ・資料及び議事概要は、後日、国土交通省のウェブサイトに掲載予定です。
https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk2_000060.html
- ・撮影及び取材をご希望の報道関係者は、10月8日（火）12時までに氏名・所属・連絡先を下記フォームよりご登録願います。
<https://forms.office.com/r/11JbFp5bbp>

（連絡先）

航空局安全部安全企画室 藏、山本、高橋

TEL：03-5253-8111（内線48-332、48-333）直通 03-5253-8696

操縦士・航空整備士の女性活躍推進WG

委員名簿

(敬称略、順不同)

【有識者】

松尾 亜紀子	慶應義塾大学工学部 教授
白河 桃子	相模女子大学大学院 特任教授 ジャーナリスト
李家 賢一	東京大学大学院工学系研究科 教授

【操縦・整備経験者】

藤井 明香	全日本空輸株式会社 フライトオペレーションセンター 品質企画部 訓練推進チーム
多田 麻里子	日本航空株式会社 運航企画部リソース戦略グループ 補佐役副操縦士
松田 実生	全日本空輸株式会社 整備センター
和田 ジャネット 麻理絵	株式会社 JAL エンジニアリング技術部技術企画室 生産技術グループ

【管制経験者】

森本 園子	一般財団法人 航空交通管制協会 常務理事
-------	----------------------

【関係団体等】

一般社団法人	日本女性航空協会 理事長
一般社団法人	全日本航空事業連合会 理事長
定期航空協会	理事長

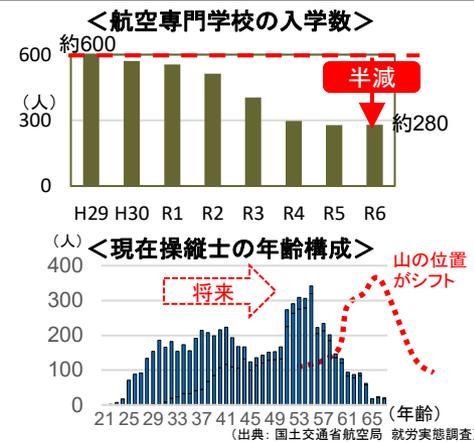
【国土交通省】

航空局	安全部長
	安全部安全政策課長
	大臣官房参事官（航空安全推進）

航空整備士・操縦士の人材確保・活用に関する検討会（概要）

趣旨

- ・ コロナ禍以降、航空整備士の志望者が急激に減少。特に航空専門学校※の入学者数は5年間で半減。これが続くと運航への影響の可能性(※航空会社の整備士の約6割を輩出。全国で9校)
- ・ 操縦士について、高齢化に伴う大量退職時代の到来や、今後の航空需要の増加により世界的にも操縦士需要がひっ迫するなど、2030年の訪日外国人6000万人の達成に不安要素も潜在。
- ・ 平成26年の「交通政策審議会(略)乗員政策等検討合同小委員会」提言から10年経過。その後コロナ禍など航空を取り巻く環境は大きく変化



2030年の訪日外国人6000万人の達成・今後の航空需要を支えるため、有識者検討会で、安全確保を前提に、航空整備士・操縦士の確保等に向けた取り組みをとりまとめ

有識者検討会

- ・ 李家 賢一 東京大学 大学院工学系研究科 教授
- ・ 松尾 亜紀子 慶應義塾大学 理工学部 教授
- ・ (公社)日本航空技術協会、(公社)日本航空操縦士協会
- ・ (一社)全日本航空事業連合会、定期航空協会、(学校法人)中日本航空専門学校

- スケジュール
- ・ R6年2月7日 : 第1回検討会(現状と課題等)
 - ・ 3月~4月: 第2回~3回検討会(ヒアリング)
 - ・ 4月~5月: 第4回~6回検討会(論点整理、骨子案)
 - ・ 6月20日 : 第7回検討会(中間とりまとめ)

中間とりまとめ

航空整備士

リソースの有効活用

- 1 資格の業務範囲を広げ、整備士一人のできる仕事の範囲を拡大(運航整備士の業務範囲拡大。日常の運航間点検をカバー)
- 2 型式別のライセンスの共通化(軽微な作業について型式別ライセンスを不要)(ベースとなるライセンスで、複数機体(B737、A320等)の運航整備を可能に)

養成・業務の効率化

- 3 時間ベースの教育から能力ベースの教育へ
- 4 最近の機体整備技術を踏まえた試験項目への刷新(複合材やソフトウェアアップデート等、最近の整備技術を反映)
- 5 デジタル技術を活用した整備の推進(作業毎にデジタル技術の活用の可能性を検証)

裾野拡大

- 6 戦略的な普及啓蒙(官民連携した広報の中核的役割の協議体を設置)
- 7 自衛隊整備士の活用促進(円滑な民間資格取得に向け防衛省と調整)
- 8 外国人整備士の受け入れ拡大(現在1国4名に留まる特定技能外国人の拡大に向け、拡大対象国・時期等を定めた計画を作成し、積極推進)

操縦士

- 1 即戦力外国人操縦士の受け入れ円滑化(ライセンス切替え手続きのデジタル化に加え、HPでの海外向けの日本ライセンス切替案内等の対策検討)
- 2 シニア人材等の活用推進(身体検査証明を取得できなくなった機長経験者がシミュレータによる訓練審査などを全面的に可能とするよう制度を見直し)

- 3 航空大学校の安定養成に向けた抜本改革(老朽化施設の更新に加え、経営の有識者を含め、体制強化、訓練効率化、収支改善等の対策をまとめ、次期中期に反映。公共性の高い小型機事業者のニーズを念頭にした回転翼操縦士養成課程の検討)
- 4 機長養成の迅速化(航空会社により可能な機長の認定範囲を拡大(海外機長等)することで、社内運用の効率性・機長養成の迅速化)

- 5 戦略的な普及啓蒙(官民連携した広報の中核的役割の協議体を設置)
- 6 私立大学の活用促進(入学から操縦士になるまでのキャリアパスをわかりやすく高校生等へ提示、「入学者増」「養成レベル向上」への課題等の調査)
- 7 女性パイロットの拡大(操縦士の女性活躍の推進(現率:1.7%)に向け、航大による女子寮充実等とともに、早期に業界への実態調査による阻害要因の洗い出し、WGでの検討等)